

「普通ってどういうこと？」へのコメント

障害者に係わるメル友から、次のようなメ - ルを受け取った。

【 障害者も地域で「普通の生活を！」っていうことが、最近当たり前のように使われていますが、普通って何なんだろうって、その言葉の持つ意味や深さを理解していないと、大変な言葉だと感じています。】

改めてこうした使い方の時の「普通とは」と考えると、どうコメント返信すればいいのか戸惑いました。

そこで、メル友にヒント、アドバイスをお願いしたところ、早速たくさんのヒント等をいただきました。

貴重なご意見が多く、私一人が参考にするにはもったいなく、みなさまに参考までにご紹介します。

なお、今日時点の返信を紹介していますが、更に他のメル友からアドバイス等をいただきましたら、随時このファイルに追加記載・更新します。

2005 / 9 / 24 記

私自身が普通の生活をしているか、普通の生活を送っているとは思いません。

しかし、他人から見れば(?)。やっぱりわかりません。回答できず?すみません、落第です。(施設職員)

私もすごく気になっていました。

単純に作業所で働くことが幸せに生きていくことにつながるのだろうか。たしかにそれが一つの道だとは思いますが...

つらそうにしている姿や義務化されている姿をみると分からなくなってしまうです。

本当に何でも食べられるようにならなければいけないのか...。楽しみってなんなんだろう...。

アドレスが集いましたら私にも教えていただきたいです m(_ _)m (養護学校教師)

本人や家族は普通にとか、普通じゃないと、思って、生活している人はいないと思います。

普通を辞書で見ると、なみ、あたりまえ、です。みんなしていますよね。

だから、普通の生活と言うのは、あたりまえの生活をしていない人が使う言葉で、障害者だからあたりまえに暮らして行けないと言うのは、間違いだと思います。

家では普通に暮らしていますよ。(在宅者のご家族)

「普通」ってたしかに難しい言葉だと思います。

障害のある人が障害のない人と同じ行動をとることができる生活が、「普通の生活」だとは思いません。

障害があってもなくても、自分の力で生活できることが「普通」だと思います。

よく聴く言葉ですが、人は一人では生きていけません。それは障害のあるなしに関わらず同じです。

そのため、「普通」の定義は他人が決めることではなく、自分で決めることだと私は思います。「普通」とは一人ひとり違っていいと思います。(障害教育を学ぶ学生)

車椅子生活になったとしても、その年の流行色のシャツを自分で選んで買って着る。あそこのラーメン屋がうまいと聞けば、ちょっと並んでも絶対食べる。これも懐具合と相談しながらだけ。

ネットさえできればいいので、車椅子も楽に入れるし、トイレもウォシュレット、光ファイバー付きのアパートで暮らす。

私の普通はあまりにも月並みです。(障害児医療に携わるDr)

普通ってなんでしょうね。

普通って定義できないもののような気がします。人によって、その意味合いが、異なるような気がします。

産まれて、学校に行って、就職して、結婚して、子どもができて、子どもが結婚して、孫ができて、そして、おじいちゃん、おばあちゃんになって、寿命がきて、死に至る。

でも、学校に行かない人もいる、就職しない人もいる、結婚しない人もいる、途中で病気になるって死を迎える人もいる。

それぞれが、生きていく中で、いろいろなことがある。そのいろいろなことは、その人によって異なる。

だから、普通って、曖昧な言葉で、その人によって、そのイメージが異なる。

「普通の生活を！」という言葉から、こんなことを思ってしまいました。

どうも、焦点があってませんね。

でも、阿部さんのメールから、いろいろなことを思い、それぞれがメールする。それは、一つとして、同じ文章はない。ということは、「普通」って、ないんでしょうね。

漠然なメールでした。参考にならず、思ったことをメールしてしまいました。

(通園施設職員)

自身が心がけてきた普通とは、人様から変わった奴だと思われない様に、自分からは障害者だと思わないこと。

「身体の一部が故障しているだけ、その箇所を誰かに補てんして貰い、同じ行動が出来ていると思いき生活して行くこと」と思ってきました。

学生時代も周りの人達が早く動かせない部分を背負って行動し、何時も同じ事をしていました。

家に居るときも私は座って訪問者が勝手に上がってくる、私に家から出て現場に行つて欲しいときには用事がある人が私を動かす。

ただ其れだけで後は何も変わった生活をしていたわけではありません。

商売も出来たし、旅行にも行けたし、友人の宴会や結婚式なども普通にして過ごしてきました。

やはり、普通とは本人がいかに障害をわだかまり無く、社会に溶け込めて行けるかだと思います。

障害とは身体の障害ばかりでは無いと思います。

視力の落ちた人が眼鏡をかけても障害だとは思わないこの心だと思います。

なんだか巧く表現が出来ませんが、障害者が自身を普通でないナ～と思わない社会ではないでしょうか？・・・。(難病で療養中の方)

普通は周りとの比較でのことでしょう。

しかし、障害者の普通は、「障害を障害と受け入れ生活をする」事が、普通。

従って、自分が自分の自律性に基づいて、生活をする事が極々「普通」と考えます。
周りがどうであろうと、自身のオートノミーに基づいた主体性を持つ全ては「普通」。
取り急ぎ、ファーストインプレッションでの返信です。(施設職員)

私もよく「普通の生活」と言いますが、改めて「普通」とは何かと聴かれると、難しいです。

私がイメージする普通は・・・、障害者「だから」 できない・・・とか、障害者「だから」 が必要・・・というように、枕詞に「障害(者)」を付けなくても(考えなくても)生活できる社会が、「普通の」社会・・・というようにイメージしています。

これは、その時代の人々の、ノーマラゼーション意識によって、その「普通さ」は変わるものではないかと思っています。

(時代によって、人々の価値観や「当たり前」度が変わるように)

・・・アドバイスと言えるような内容ではありませんが、送信いたします。

(障害児教育行政に携わる方)

「普通」すごく、あたり前に使われていて、その深さに気付かないものですね。改めて...思います。

私の考える「普通」。それは、当人にとって、普通であることだと思います。

周りがあれこれ考えることなく、その当人がどんなことを「普通」とかんじているのかを知ることから始まるのでは、と思います。その当人の普通が、あたりにできる生活が、その人にとっての「普通の生活」なのでは...と思います。

また、障害児の親の主張に時に身勝手さを感じても、それを甘えと分かっているながら話し合うのは面倒だからと、受け入れがちな社会。

甘えを受け入れてもらうことと、理解してもらうこととは、大きな違いがありますものね。

障害は所詮、社会がつくっているものですものね。

おこりんぼもいれば、優しい人もいる...そんな違いのような気がします。

ただ、優しさの中でそだった人は、おこりんぼを見ると、びっくりする。でも、実際関わってみたり、誰かにあのおこりんぼさんは、怒ってばかりじゃあないんだよって教えら

れれば、そうか～なんて理解が深まるかもしれない。

そんな、ちょっとした、すれ違いのなかで、理解じゃなく、誤解になることもあるのでしょうね。

本当に人って、コミュニケーション下手ですね(笑)。沢山のコミュニケーションの手段があるのにね…。不思議です。

私もコミュニケーション下手なので、一生懸命コミュニケーションに励んでます。そういうものですよ…人生って…。(通園施設職員)

難しい質問ですね。私も障害のある方と係わっている一人として応えねばと思い返信します。

「普通」って当たり前にできるように当たり前ではなく、簡単そうで実はとても難しいもののように思います。「幸せ」という言葉と同じで、安易に使っているものの人によって考えている「普通」というものも相当な違いがあるでしょうね。

そこで私自身の生活を思い返してみることで「普通の生活」を考えてみました。

ちょっとお腹が空いたので近くのコンビニへ。今日は疲れたから帰ってビールを飲もう。これが今の私の普通の生活です。

こう考えたとき、現在勤めている施設で暮らすメンバーとの生活の違いを感じます。

コンビニは余暇プログラムで「コンビニに行こう!」と高らかに宣言し出かけるものでひとつのお出かけスポットとなっています。

ビールがのみたいと思っても3食きっちり栄養管理がされており、飲物も管理内です。

これだけでもこんなに違いがあるのが今の現実です。

決して私の生活が「地域での普通の生活」とは思いませんが、メンバーの今の生活が「地域での普通の生活」なのかと考えると疑問は多々あります。

ただ、彼らはこの生活を何年も続けていてこれが彼らの「普通の生活」となっているのも事実です。

だからこれが「地域での普通の生活」ですよと言われて、ボンと地域に置かれても全然楽しめないでしょうし、不安や変化への戸惑いのほうが大きいでしょう。ひとつひとつ段階を踏んでいくことが大切だと感じますが…。

話がどんどん逸れてしまいましたね。こんな返答しかできませんでしたが、他の方の考えもぜひ教えていただきたいです。(施設職員)

行政に携わる者として、いつも考えているのですが、誰かが、意図的に「普通」という基準を作ってしまったのだろうと・・・。

阿部さんが前におっしゃったように、一人ひとり普通の内容が違って当たり前なのだろうと、思うんです。

A高校ではテストで60点が普通のライン、B高校では、40点・・・これも人為的に作られた普通のラインですよ。

50点の人は、Aだと普通以下、Bだと普通以上。たとえばうまくありませんが・・・。ひとりの人を見ずに、全体でくくるからなのかなあ、等と思ったりもしています。

障害福祉のケアマネジメントは、一人ひとりの自己実現のために、どうするのか・・・が基本だと信じています。

そんな中で「普通」って何だろうって、これからも考えていきたいと思っています。

(障害者福祉行政に携わる方)

いろいろ考えました。

これは制度が整うことやサービスができるだけ快適に受けられるということももちろん含まれるとは思いますが。

ですが、障害をもつ方が、望んでいる"普通"(この言葉はホント簡単には使えないと思いますが)ということとは、そういう一般的なことよりももっと個々人におけるものなのではないかと思っています。

例えば地域の人達の中で、自分のことを理解しようとしてくれる人、気にかけて声をかけてくれる人、他愛ない世間ばなしができる人、そういう人が一人でもいるかどうかで、生活の潤いが違うと思うんです。

障害を理解というか認めてくれるというか、そういう土壌が身近な地域に根付くことが、一番必要なのかなと思います。孤独ではないという事。かといって、不必要に干渉されないことも、自分の生活を振り返った時にはあたりまえのように保障されているし...

うーん、これはすごく大変で一筋縄ではいかないことかもしれないですけど。

あとは自分が没頭できるようなことがあるとか、自分を表現できる場があるとか、生活に潤いがあるということも大切でしょうか。

うー、やっぱり個々人によると思います。私の生活に当てはめて考えたことなので分か

りませんが。(養護学校教師)

この前メールをいただいていた「普通」という言葉の件ですが、普段は意識していないようなことなのではないかと思いました。

うまく説明はできません・・・。当たり前に行っていることというのか。

でも、そのために、何もしていないかというところではなく、それなりに努力はしているのではないかと思います。

自分の生活で考えているのですが、給料をもらうために職場では責任のある仕事をしようとしていますし、そのために時には残業もします。遊びに行くために、早めに家事を終わらせるとか。

障害のある方は、やはり特殊な生活を強いられているのか、たぶん、支援もまだまだ十分ではないのですよね。

随分前に「車いすの花嫁」の鈴木ひとみさんの講演を聴いたことがあります。鈴木さんは、自分たちが結婚したのは、普通のカップルのごく当たり前のことで、それを知って欲しくてドラマもOKしたと話していました。

子どもが高校生になり、本人が責任を持ってしなければならないことが増えていることを感じます。

数ヶ月前に中学、高校の同級生に会う機会がありました。

その友人のお兄さんは身体障害者で、身のことは介助が必要なようでした。

どうしても一人暮らしをしたいというので、東京で一人暮らしを始め、自分の好きな絵を描きながら仲間のグループの支えを受けながら生活していたそうです。どのくらいの期間か正確には聞きませんでしたが、東京で昨年体調を崩し、そのまま亡くなったそうです。

家族としては納得できない思いもあるようです(家にいればもっと生きていることができた)が、お兄さんにとっては、求めていた生活で充実した一生だったのかもしれない。

(難病福祉行政に携わる方)

普通という言葉、何を基準にして、どんな価値観の判断でいっているかにより、そのひ

と個々人により普通の持つ意味が全く違うものになるのでは。

一般的に施設に入所しているだけで普通とは捉えていないのでは、障害者も親と一緒に家庭生活し地域の中で生活していく、つまり健常者と同じような環境の中で生きていく事を普通といているのかなと。

しかし、健常者が可能な事もかなりの制限や不可能も一杯抱えた形の内容になるのでしょうか・・・。(施設職員)

私的な見解ですが、(生意気にも)述べさせていただきます。

わたしもよく「普通の生活」と使います。よく高校生等が使用する...「今日の授業はどうだった?」「う～ん、普通かな?」という意味とは違います(笑)。

ここでいう「普通」とは...地域の中で暮らす住民の方々は、障がいの有無や大家族・核家族などの状況の違い、さまざまな世代の違い、それぞれ生活レベルも違い、それであって共に暮らしているのが社会であり、その中で個々の生活を「普通」と呼んでいます。

ですから、一人ひとりの生活レベルを「普通」という表現で使用しています。いわゆる“当事者向け”、“一般住民向け”の使用語だと思います。

この「普通」は、意味そのものより「周知しやすさ」とか「理解しやすさ」で使用しているところがあると思います。「普通」の使用方法は非常に問題がありますが、日本語の良さは外国語にない「曖昧さ」ではないかと思うんです。

「いずい」とか「まあまあ」など非常に使いやすい言葉(方言もありますが...)だと思うんです。

でも実際に若者は、その曖昧さを別に捉えており、理解に苦しむことがあります...

新法における「普通」の表現は、前提的な説明があったうえで使用されていることもあり、わたし的には非常に理解し易いものと認識しております。ただし、「普通」の意味や範囲は非常に幅が広く、何でもかんでも「普通」と使われる可能性が高いものですが、それは実践で証明すべきモノかと思います。

先日、大崎で「いやだな～おかしいな～と思っていることを話し合おうフォーラム」を

当事者中心に行いました。

その中で、当事者本人の発表があり、「障がいをもっているからといって生活すべてが保証される、何をやっても許される...という一部の当事者の考えは、障がい者本人が改めるべきだ」という意見、「出来ることなら納税者になりたい」という意見、「何でも行政に言うだけじゃなく、自ら行動をすべき」という意見がありました。

医療費、生活費、サービスの自己負担など今後いろいろな課題はありますが、周囲や支援者が当事者を「守る」だけでなく、当事者本人の「エンパワメント」が必要で、その力をつけて自ら生活水準（QOL）の向上を実現していく...それが「普通」の生活ではないかと思います。

これらは、障がいをもった方、高齢者など“弱者だけでなく、社会問題になっている「ニート族」や中には甘えている「生活保護世帯者」にも言えることだと思います。

（地域の障害者の福祉支援に携わる方）

以前の阿部さんからの問いかけの「普通」の意味合いについて、単に「普通」の二文字だけではなく、「普通の生活」という5文字にすると分かりやすいように思いました。

（在宅者のご家族）

ところで、先生からメールを頂いた「普通」についてですが、私はアドバイスできるほどではないのですが、よく同じことを考えるので、その考えていることを伝えたいと思い、メールしました。

いわゆる「健常者」、「障害者」という区別がついている現在においては、やはり、誰にとっての「普通」なのかによっても内容が変わってくるように思います。

「健常者」の目線で見るとき、普通の生活は、日本人の多くが暮らしているような、「健常者」にとっての当たり前生活を指すように思います。

「障害者」にとってもそれもあると思いますが、どちらかといえば、理想の「普通」の生活であって、長年その障害と付き合ってきた方々にとっては、「健常者」にとって普通でなくても、障害があることで多少を不便を感じる生活の方が「普通の生活」になってしまうのではないかと考えます。

なんだか、分かりにくくてごめんなさい。（障害教育を学ぶ学生）

“ 普通の生活 ” に関してはいろいろな考え方があると思いますが、まずは normalization の理念が根底にあると思います。

この考え方も北欧をスタートして、北米経由でしかも提唱者の多少の調整有ったりですが、その国の文化や伝統なども反映してると考えます。

たとえば家庭で暮らしているとその家庭のリズムがありそれが、体のリズムにも合い快適です。週末休養とっている人が何かの事情で、どこでも取れなくなると生活のリズムも狂うかもしれません。

私たちは一日のそして一週間のまた一ヶ月のあるいは人生のサイクルを持っていますが、自分の意志や自分の事情ではなく、望んでいるそして日常の希望や要求が著しく乱され侵害されると不快であり、これは普通ではなくなります。これは自分にとっての普通がかなえられていませんね。

少し月並みに言ってしまうと、社会生活や教育その他もろもろの点で、自分が望む、自分らしく生きられることがかなうことと考えますが、如何でしょう？

どんなに素晴らしい施設でも、ある程度の人々が集まると “ 普通 ” が普通ではなくなりますよね。グループホームの成長、進行も今後の課題ですね。日本が模索し実行していることが個人を尊重し人権を守ることを忘れないで欲しいですね。(大学教官)

地域で普通に暮らすいろいろな意見興味深く読ませていただきました。

ひとつに定義できかねる内容かとも思いましたね。

うちの学校は 20 年間、市内のある町内会に祭りの一員として参加させていただいています。

祭り準備の立ち上げから諸準備、前夜祭本祭り、学校での御神輿体験、打ち上げ会、後片づけと参加するので、かなりハードだなと感じました。

街を学校の御輿で練り歩くと、温かく迎える眼、何か気味悪いものに出くわしたといわんばかりの眼、いろいろな迎えられかたをして、この地域での受け入れられかたが、肌で感じられる数日間でした。

しかし、私たちの学校がお世話になっている町内会の、組頭から長老、おかあさん方、若者たちみんな、うちの子どもたちへの接し方が自然なんですね。

年 1 回のおつき合いながら、20 年間の蓄積はすごいと感心したわけです。町内に住ん

でいる生徒は一人もいないのですが。

打ち上げ会の挨拶で申し上げたのですが、「この町内会の皆様のように、足りないところは目をかけ、手をかけていただき、いけないところをご指導いただき、できるところは一緒にやらせていただき、何か良いことをしたらほめていただく。このような地域で生活させたい。」

どうも先日紹介いただいた明石さんの本の影響があったかなと、後から思いましたが。思いと行動と積み重ねですね、何事も。(養護学校教師)

(21)何をもって普通なのでしょうね。

あえて云えば、何も意識しないで日常生活が淡々とできる場面、状況が多いということかな。

例えば、空気があることが当たり前で、息することを意識していない。それが、普通と我々は思っている。

でも、何かの事情で自力呼吸が困難になると、呼吸器等の助けを借りる。つまり、呼吸することは普通でなくなる。でも、呼吸器をつけて日常生活に慣れると、それが普通になる。でも、外出しようと思った折、我々以上にその準備、段取りをしなくてはならない。

こうした折、日常、意識していなかった障害がまた頭をもたげる。そうした時、自らの障害故に日常生活に支障が多くなり、気遣いが多くなる自らの障害を意識せざるを得ない。

こうした意味では、だれもが普通であって普通でない。

やはり、障害のある方は、常に日常生活にも、時により、場所により、状況により周りの援助が必要となります。その援助が必要となり、またお願いするという気遣いをお願いすることを意識しなくてはならない。障害があると、そうしたことが日常的には多いと思います。

やはり、「普通、普通」ということより、人それぞれにどうした状況の時に何が必要かを具体的に聞いて支援すること、言い換えれば、自らの責任でない障害の意識や障害故の周りへの気遣いすることが出来る限り少なくしていい環境作りが必要かなと思います。

恐らく、「障害者も地域で普通の生活を！」を云う時の「普通」とは、「障害」故に不都合を感じなくていい、自らが障害者であることを意識することが少ない地域の生活環境作りのことでないかと思います。

当然、その人の一つの属性に過ぎない障害を理由に、その人の存在を規定され、管理さ

れる生活を強いられることは、普通ではない。

「施設解体」というスロ - ガンは、こうした意味から派生したものとも云えると思います。
やはり、社会は、生活環境作りに努めなくてはならないと思います。

私も施設の勤務時代に、「阿部君のこの仕事の理想は？」と聞かれた時、「カッコよく云えば、重症児が施設入所せざるを得ないことがなくなり、自分が失業すること！」が答えの一つでした。

一方、こうした環境改善と共に、不都合と感じる「主観的障害」という側面の問題もあると思います。自分には普通であっても、ある人には普通でないことも。その逆も。

ですから、「自分には障害があるから、これは不都合」と云われても、「本当に障害故の不都合か」と相手が理解できず、誤解が生じることも。

やはり、「主観的障害」を理解し合うには、まずは発信し合って、その話のお互いの背景を理解する努力を双方に必要と思います。

こうした側面があるが故に「その言葉の持つ意味や深さを理解していないと、大変な言葉だと感じています。」ということなのでしょうね。

話は飛ぶかもしれませんが、何も考えなくていい(意識しない)のが普通なのではなく、常に考えるのが普通とも云えます。

例えば、人は自分は障害者になるとは意識していない(普通)から、自分が事故等で障害者になると、日々意識しなくてはならない(普通でなくなる)から、どう意識しつつ生活すればいいのかで狼狽える。

そうではなく、人は、いつ、如何なる時にか病にかかるかもしれない存在、障害を持ち得る存在と意識し、障害がある、なしに拘わらず、人が生きるとはどういうことかを日頃から考えていれば、狼狽えない。言い換えれば、「主観的障害」をそう感じなくて済むかもしれない。

「人間とは、考える葦である」と、昔から哲学者は云ってますよね。この哲学者から見れば、常に「考える人」が、人間として普通なのでしょうね。

先には、「日常淡々と、意識しないことが多いことが普通」といい、ここでは「日常、考え続けることが普通」といい、何だか禅問答のようになったようで、コメントにならず申し訳ない。

我々は、「ごく『普通』の生活をしてるから、『普通』なんて意識したことはないよ。」という人もいるかも。また、「ごく『普通』に過ごしたいから、いつも『普通』を意識しているよ。」という人もいるかも。

色んな見方、考え方があるのが、この世の「普通」かも……。

でも、この社会、地域には、「普通の生活を！」と叫ばざるを得ない方もいらっしゃるのですから、そうした方々の願う「普通」とはどういうことかを、この機会に自分自身に置き換えて「『普通』とはどういうことか」考えたいと思います。

そこから、障害のある方が地域で「普通」に暮らせる地域のあり方、我々のあり方が、見えてくるような気がします。(阿部)